



初恋は消耗品  
ハセガワアユム

初恋は消耗品

ハセガワアユム

## 登場人物

・登場人物

優菜 ・ ・ ・ ゆな。JK1。いわゆる高校一年生。初恋をこじらせている。

木下 ・ ・ ・ 若い頃に売れ、細々と活動しているミュージシャン。ネオアコの匂いがする。

・舞台

新宿歌舞伎町にある「ホテルミラクル」908号室（最上階）

・シーン1

ラブホテルのベッドに私服で体育座りしている優菜。

離れた椅子に座っている木下。

座っている位置はお互い逆でもいい。

優菜、甘ったるいマシンガンのようにだらだらと喋っている。

優菜 年の離れたお姉ちゃんがいるんですけど。

間。

優菜 ずっと恋愛したことなくて。23でやっとの初恋で大失敗して。

木下 . . .

優菜 . . . そのあと、ヤケクソで付き合ったひとと出来ちゃった結婚して、でもすぐ離婚して。 . . . 結

局出戻りのシングルマザーなんですけど。うち、親もシングルマザーなのに、お姉ちゃんもかよって心で突っ込んじゃって。きつつつて。はははは、

盛大に笑う優菜。

木下　　・それは、笑っていいところのかな、

優菜　　全然。笑ってくださいよ。

木下　　うーん（苦笑）

優菜　　だって、お姉ちゃんの旦那さん、超々々々いいひとなんですよ！ 建築家やってて、お金も持つ

てるし、優しいし、いい年してデイズニールランド大好きで、椎名桔平に似てるんです。完璧でしょ？

・・なのに離婚とか。絶対お姉ちゃんに問題あるだろうってお母さんもあたしもびくびくしてて肝心の理由が聞けなくて。

木下　　ははは、あ、ごめん。

優菜　　「もとはといえは初恋こじらせたヤケクソ出来婚が失敗だった！」とか、リビングで吐きながら飲んでて。「でも息子は可愛い！ 息子が恋人！」とかさらにこじらせてて。

木下　　吐きながら飲むって、

優菜　　酒癖悪いんですよ。あたし高校生だったのに、飲ませようとするし、

木下 飲まないの？ 俺、飲んでたよ、高校のとき、

優菜 や、や、や、飲みませんよ、

木下 飲んであげなよ、そういうときは。

優菜 ……うーん、

木下 最近の子って酒もタバコもやらないもんね。今日のカフェライブだって、全席禁煙だったし。

優菜 時代？ なんじゃないすか、

木下 俺がおっさんなのかなあ、

優菜 何言ってるんですか、木下さん超若いです！

木下 38だよ。

優菜 超若いです！ …お姉ちゃんなんて木下さんが本当に若い頃の、前のバンド時代から大好きで。

子供いるからライブいけないけど、って、車でガンガンかけるんです。『情熱のくちびる』。

木下 ああ、うん、懐かしい、

優菜 あたしも、あ、これいい！ みたくなって。それから木下さんのツイッター、フォローして。

フォローされ返されたから！ お姉ちゃんに自慢して。お姉ちゃん、フォローされてないんで。

木下 え、まじで？

優菜 あはははは、超ウケますよね。超ファンなのに。

木下 誰だ？（とスマホを出す）

優菜 赤ん坊がアイコンで。

木下 そういうひといっぱいいんだよなあ。世代的にそういうファンがたくさんいるから。俺のフォロワー赤ちゃんだらけ。

優菜 キーくん、

木下 名前言われても（笑）

優菜 「鍵」って漢字で書いて、「キー」くん。

木下 すごい、すごいねえ

優菜 あたしの読みでは、木下さんの「キ」から取ってるんじゃないかとか、

木下 怖い、怖いねえ

優菜 ふふふふ、

木下 え、まじで誰だ？（またスマホを見る）

優菜 いまさらいいですよ、もう

木下 そお？

優菜 いいですって、恥ずかしいし！

と、スマホの上に手を乗せる。

アドリブでじゃれあう。

優菜 ストレスで、コンビニで万引きして以来、更新してないし！

木下 ええ、

言っちゃったという空気。

木下がふつとキスをする。

優菜、キスには慣れず、驚いた硬いリアクション。

木下 それで、そんなお姉ちゃん見てたら処女捨てたくなっちゃったんだ。

優菜 ……捨てたいっていうか、こじらせるのやだなって、

木下 ん、

優菜 処女、って言い方も、まあ、処女は処女か、

木下 ああ、ごめんね。

優菜 ええと、

間。

木下 優菜ちゃん、緊張してたんだ？

優菜 え、

木下 ずっと喋ってたから、

優菜 そうですか？！

木下 そうだよ、ずっと、

優菜 (あたりを見渡し) こういうところ、はじめて来たから。テンション上がっちゃって、

木下 そっか、

冷蔵庫をあける木下。

木下 お酒飲む？

優菜 いや、いいです、

木下 お姉ちゃんみたくなっちゃおう？ (笑)

優菜 笑えないっす、



ポカ리를渡す木下。

優菜　っ甘い。

木下　（笑う）甘いよ、ポカリなんだから、

優菜　普段飲まないんで、

木下　そっか。

間。

木下　そういう子って珍しくないから。

優菜　・・・ポカリ？

木下　じゃなくて、その、処女捨てたいなみたいな、ファンがね。

優菜　珍しくないんですか？

木下　・・・

優菜　赤ん坊いるファンばかりなのに、処女？

木下　んーんーんー、若い頃ね。『情熱のくちびる』がバカ売れした頃？　ゼツプ東京（大きいライブハウスなら他の名称でも可）とかでライブ終わって、裏から出ると、もうなんていうか出待ちっという

の。フアンの子が。電話番号とかメルアド書いた手紙とか握りしめてさ。．．それと同じように、みんな悩みを握りしめてた。小さな手に。

優菜　．．へえ

木下　痴漢にあつてセックスが怖いとかね。俺のためにあえてとっておいた33歳の方とか。彼氏と半分したけど、痛くてそのままうまく行っていないとか。単純に純情に、単刀直入に俺が好きとか。

優菜　モテモテじゃないっすか、

木下　なのかなあ。．．まあ、みんな相手にした訳じゃないけどね。やっぱり悩みを抱えてた子は放つとけないし。．．幾人かは。

優菜　いくにんかは（まじまじと木下を見る）

木下　そういう目で見ないで。だって、なかには、ひどいんだぜ。「一回でいいからしてくれなきゃ死ぬ！」って機材車にいたずら書きして、嫌がらせしてくる子も居てさ。

優菜　ええ、

木下　こりややばいって。でも一回だけしたら．．ピタッと止まった。

優菜　．．．

木下　だから、その、珍しくないっていうか。．．わかるよ、優菜ちゃんの悩み。（誤魔化すように）俺も、その、ツイッターで仲良くなったからって、いきなりラブホはどうかなんて思ったけど、新宿っ

てこの時間、ゆっくり話せる場所全然ないんだよね。新宿ってさあ、

優菜、木下を見やる。

優菜 あたしは、その、処女を捨てたいっていうより。恋愛の練習がしたいんです。

木下 ……れんしゅう？

優菜 お姉ちゃん見ても、学校の友達見ても、初恋で付き合いはじめても結婚まで実らないじゃないですか。

木下 はつきり言うね、

優菜 でも本当でしょ？ 木下さんもそうだったしょ？

木下 ……まあね、

優菜 最初からうまくいくことなんてないのに。わかってるのに。こいつらなんで恋してるんだろって。

意味なくね、って。渋谷のスタバで交差点見下ろして高校生のカップル見てたら、ふっと怖くなって。

…これ、中二病ですか？

木下 いや、…斬新すぎて、残酷すぎて、違うと思う。

間。

優菜 あたし、結婚したいほど好きなひとがいるんです。だけど、その人と失敗したくないから。はや  
く、初恋つかっちゃいたっていかか・・・

間。

木下 なんて、僕なの？

優菜 ……木下さんの歌好きだし。（小さく歌う）「情熱の真っ赤なくちびるにキスをしよう」「本  
当のきみが出てくるまでキスをしよう」って、すっごいわかるなあって、

木下 ……んん、（小さく笑い）キスしたこともなかったんだよね、

優菜 キスはあります、

木下 え、

優菜 その好きな人と・・・キスだけ・・・そのとき、あ、このキス進めたらダメなやつだって。あと、

木下 あと？

優菜 木下さん、なんかちよつと似てて。その、好きな人に。

木下 ……正直だね。

優菜 ごめんなさい、

木下 . . . . .

優菜 (やや震え) 誰にも話しことないゾーンまで突入してるんで、もうちょっと正直に喋ってもいいですか？

木下 . . . . .

間。

優菜 その好きなひとつて、お姉ちゃんの、離婚したひとつなんです。

間。

木下 椎名桔平？

優菜 雰囲気か、

木下 (自分を指し) 俺も椎名桔平？

優菜 雰囲気が、

顔を赤らめる、優菜。

ベッドに仰向けに飛び込む。

優菜 あっつい、

そつと寄り添いポカリを優菜の頭に乗せる木下。

木下 (静かに泣いている)

優菜 なんで泣いてるんですか、

木下 きみがかわいそうで、

優菜 . . .

木下 . . . 条件がふたつあるけどいい？

優菜 なんですか？

木下 ひとつは、トジョーレーっていうのがあってだね。高校生との交際は不純として捕まってしまう恐れがある。

優菜 え、年上と付き合ってる友達、いますよ。

木下 恐れがある。僕はほら、ファンもいるし。だからこれは絶対秘密の関係だから口外しない。

優菜 . . . はい、

木下 それと、いまツイッターとかSNSが発達しすぎてるから、写真も禁止。ぼくらは、お互いの写真を絶対撮らない。・・・約束できる？

優菜 (うなづく)

木下 期間は、とりあえずワンシーズン。

優菜 ワンシーズン？

優菜の頭を撫でる木下。

木下 僕からもいい？ 言っておきたくて、

優菜 ・・・

木下 信じられないと思うけど、きみも似てる。

優菜 え、

木下 ・・・僕の初恋のひとに。・・・さっき話した、その嫌がらせしてきて、ピタッと止んだ子に。

優菜 (ふふっと笑い) 嫌がらせされたのに初恋だったの、

木下 ・・・

優菜 変態じゃないですか、

木下 どうかしてた。どうしていいかわかんなくて、最後、ひどい振り方しちゃって。

優菜  
初恋だから、

もう一度キスをする。

【音楽と照明】ムーディな感じに変わっていく。

その中で、優菜がするりと木下の腕を抜けてドアへ向かって去っていく。

木下、自分の股間がガツチガチに固くなってるのを見やり手で摩る。

木下  
どうかしてるッ！！！

優菜を追いかけて出て行く。

【暗転】

・シーン2

【照明】灯りがつく。

テロップ「半年後」。



試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

## 初恋は消耗品（おためしサンプル）

---

2015年9月22日 初版発行

2015年9月24日 改訂（ver.1.001）

著 者 ハセガワアユム © 2015年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-24-9529

---